

ぬまび憲法9条の会

◆帝国主義時代に 逆もどり

2022年2月24日にウクライナでの戦争が始まって以来、多くの人が重苦しい気持ちを抱いて生きていくのではないかと思う。戦いは熾烈になり、どのような結末を迎えるのかまだ予想ができない。ひとたび戦争が始まると止めるのはたいへん難しい。この「特別軍事作戦」が、世界中を大きな戦争に引きずり込むのではないかと心配だ。ロシアには核兵器の使用を訴える声もある。たとえ戦術レベルのものだとしても核兵器が使われたらどうなるだろう。

2014年から紛争が続いていることも、複雑な歴史や難しい問題があることも知っている。だが、三日で首都を陥落させて傀儡政権を立てることができるといふ楽観的な見通しで、侵略を始めたロシア政府が、まず第一に責められるべきだ。この侵略のために双方で多くの兵士が死んでいる。ウクライナでは住民もたくさん命を落としている。ブチャでの虐殺には目を覆うばかりだ。

ロシアのこの大規模な侵攻をきっかけとして、日本を含めて国家の首脳たち、特にNATO諸国の首脳たちが、軍拡と軍事同盟強化に向かって舵を切った。それぞれ国民の多くも軍拡を容認している。軍拡競争は始まったら止めることができない。敵対する相手よりももっと破壊力のあるものを、より多くの武器をと

229号
2025年
3月1日発行
事務局
神田健夫
055-921-7755

突き進む。ついには核武装や、もっと恐ろしい兵器の開発へと向かうに違いない。まるで18世紀19世紀の帝国主義時代にまで歴史の歯車が戻ってしまったようだ。

◆なぜ戦争を
廃絶できないのか

ウクライナでの戦争もいつかは終わるだろう。残るのは地雷や不発弾やがれきの山だ。戦場で負傷し障害が残る人もたくさん出るだろう。破壊されるのは建物ばかりではなく人間の心もだ。双方の国民の憎しみと恐怖は、きつと何世代にもわたって引き継がれる。

「満州事変」と名づけた。日本政府は「満州に、日、朝、漢、満、蒙の五族が協和する国を作る」という一見きれいなスローガンを掲げた。日本人の大部分は真実を知らされることなく、政府の行動を支持した。

二度の世界大戦を経験して、私たちは戦争の恐ろしさを知っているはずだ。直接の体験がなくても、本や映像で残酷さを想像できる。だが20世紀後半には朝鮮やベトナム、湾岸、イラク、アフガニスタンで、そして21世紀のいままたウクライナで戦争だ。「宣戦布告」なしのこれらの戦いは、国際法に基づけば戦争とは言えないのかもしれない。しかしその恐ろしさと人々の苦しみは「公式の」戦争と同じだ。これらの目を引く戦争のほかにも、武器を用いた地域紛争は、アフリカ

自分たちの立場と行動だけを正当化する。全体主義は上からだけでなく下からもやってくる。国の決定に従わない人たちが攻撃するものが現れる。密告がはやる。社会全体の雰囲気がおぼろり、重苦しいものとなる。かつての日本人が経験した状況をいま、ウクライナ人やロシア人が経験しているのではないかと思う。

や中東、そしてアジアで絶えることがない。なぜ、いまだに戦争や紛争を廃絶することができないのか。

国際連合は、第二次世界大戦の戦勝国によって設立された。だから「戦勝国こそが正義だ」という独善的な態度にとどまり、植民地主義や、自らの利益のための領土分割、天然資源の独占など、過去に自分たちがやらなかった非道を反省することがなかった。現代の地域紛争の背後にも、自国の「国益」を追求して口を出し、介入する国々がある。その目的は、平和を築くことよりも、自分たちの政治的、経済的な利益の追求だ。大量に消費される武器や弾薬で、軍需産業は大儲けをする。国がその代金を払う。多くの国の経済の仕組みにとって軍需産業は経済を支える欠かせない一部門となつてしまつている。だから国益にとらわれた国家首脳たちには戦争をなくすことができない。

◆政府と国にあらがうこと

どの国であれ、普通に暮らす人々にとって戦争は被害と苦しみしかもたらさない。軍備の費用は私たちが税金で負担する。戦争に動員されれば血を流し命を失うことだつてある。人殺しを強制される。「国益」はその国の政治と経済を牛耳るものたちにとっての益にすぎない。気候変動を恐れるなら、エネルギーを大量に消費し地球を破壊する軍備と戦争こそをなんとかすべきだ。軍隊が自国民を弾圧するために使われたり、軍隊自体が権力を奪取し軍事政権を立てることがあることも忘れてはいけない。

人間は社会的な生き物だ。私たちが暮らすには集団を作ることが不可欠だ。でも集団が必ずしも良いことばかりをもたらすわけではない。大きくなるに従つて害悪も大きくなる。「国」の

規模になると、カネと権力は一箇所に集中し固定する。そしてこの二つは結託する。だから、どんなものであれ、だれが担おうとも、政府は必ず腐敗し強権化する。戦争を防ぐには、世界中の人々が自分たちの政府を警戒し、国への帰属意識を薄め、国益ということばや愛国主義に惑わされないようにする必要があると思う。

2025年意見広告

- ① 掲載期日2025年5月3日の憲法記念日 朝日・中日新聞 西部地域(朝刊に掲載 卓内版1面15段)但し、掲載日は新聞社の都合で変更になる場合もあります。
 - ② 主催団体 静岡県意見広告参加9条の会
 - ③ 賛同者氏名掲載料金 500円
 - ④ 賛同者目標 朝日・中日新聞: 5300名以上 昨年5119名でした
 - ⑤ 募集期間 4月14日(月)まで
- 詳細は「朝日新聞に意見広告掲載にご協力を」とのチラシと封筒を用意しております。

ちよつと良いニュース

＊トランプ氏、不支持が支持逆転

就任直後の1月調査では支持46%、不支持43%だったが、米キニピアック大が19日公表した世論調査によると、トランプ大統領の支持率は45%で不支持の49%を下回つて逆転した。また、ロシアのプーチン大統領について、81%が「信用すべきでない」と答えた。

＊ウクライナ侵攻の「終わり方」強者の蹂躞ではいけない

前線で激しい消耗戦が続くなか、ウクライナでの停戦に向けた動きが驚くべき速さで進む。戦争の終結の兆しが出てきた形だが、市民に高揚感はない。侵略を受けたウクライナ不在で進む米国とロシアの交渉は、国際秩序を破壊しかねない懸念がつきまとう。

日本を戦場にさせない

「戦争させない 憲法壊すな 沼津の会」主催

日時3月16日(日)

13時30分

会場 沼津中央公園
集会・スタンディング

- 敵基地攻撃能力の保有は、日本が「戦場」に
 - 9条改憲許さない
 - イスラエルはガザでの「虐殺」をやめよ
 - ロシアはウクライナ侵略をやめよ
- 雨天中止

土曜日・駅頭
スタンディング

場所・JR沼津駅南口
井上靖記念碑前

時間 13時30分〜14時
15分 毎週土曜日

雨天中止
フラカードを持って立つても、腰掛けても参加出来ます。

あなたの思い
を行動に